
タクトピア

「『Hero Makers』

未来の先生へ至るEMBA型共創型プログラム」



Hero Makers
for future teacher

Hero Makers

～「未来の先生」へ至るEMBA型共創プログラム～
by タクトピア株式会社



目次

1. 背景とプログラムの狙い	p.3
2. 実施内容	
1. プログラム設計概要	p.4
2. プログラム実施の様様	p.5
3. 参加者	p.11
3. 実証成果	
1. 概要	p.12
2. 参加者プロジェクト一覧	p.13
3. 参加者アンケート	p.15
4. 共創学生アンケート	p.21
5. 参加者の声（終了後）	p.23
4. 次回Hero Makersに向けての課題と改善案	p.25
5. Hero Makersの今後の展開可能性	p.26
6. 今回の実証事業を終えて - タクトピア株式会社 共同創業者 白川 寧々 -	p.27

背景とプログラムの狙い

背景

「世界のあらゆるテクノロジーを集めた教室」と「ソクラテスが教える空っぽの教室」、どちらに自分の子供を任せたいだろうか？

そんな示唆的な問いが示すように、**教育とは結局「人」**である。しかし、現状は多くの子供たちと圧倒的に多くの時間を過ごす人間である先生たちが、もっとも「21世紀」「最先端」「グローバル」から取り残されている。

全ての改革の方向を握る「人＝先生」に対して、短時間でマインドセットと行動様式を全て塗り替えるグローバルリーダー教育を行き渡らせ、この職業そのもののパラダイムを変革できたら。先生たちに、未来の教育で必要なりテラシーやチェンジメーカーとしての彼らへの支援、行動し実践するためのコミュニティを与えられたら。

自らチェンジメーカーの自覚を持ち、根本的な意味で子供たち中心に考え、子供たちとの共創によって社会変革を実現していく。そんな「**未来の先生**」を育成するためのプログラムが必要だと考え、私たちは本プログラムの実証実験に取り組んだ。

プログラムの狙い

対象は全国の教員、教育関係者、特に以下をメインの対象としている。

- ①熱意があり、現状の教育や学校の改革の必要を感じているが
- ②アイデアを考えたり、アイデアから具体的な行動に移せていない教員

本プログラムでは、**参加者の教員自身がプロジェクトオーナー**として実際の教育現場の問題解決に取り組むことで、探究的に以下のものを得る狙いがある。

- ①アントレプレナーシップのマインドセットをもとにした本質的問題解決能力
- ②グローバルリーダーとしての振る舞い方や視座の高さ
- ③参加者自身のプロジェクトの検証実績や成果、協力者
- ④想いを同じくする教育者コミュニティ

本プログラムは、アントレプレナーシップ式 実践EMBA型教員研修を通して「**チェンジメーカーが生まれる教室**」がオーガニックかつ当たり前**に**生み出される**エコシステム構築**をめざすものである。



10月6日（土）10:00-18:00

場所：Startup Hub Tokyo

- ・ イントロダクション&英語でのアイスブレイキング（共創学生も参加）
- ・ ゲスト講演
 - 後藤 健夫 氏（教育ジャーナリスト）
 - Christina Qi（Domeyard Founder）※英語での講演
 - Joseph Jeong（FutureHack Founder）※英語での講演



10月7日（日）10:00-18:00

場所：ちよだプラットフォーム/Startup Hub Tokyo

- ・ 今の自分の想いを英語で伝える1分間ピッチ（一人ずつ発表）
- ・ 1分間ピッチの内容を元にしたチーム決め
- ・ チーム単位で生徒との共創（意見の交換と協働のアイデアを発表）



10月8日（月）10:00-18:00

場所：昭和女子大学

- ・ Hero Makersの目標とは？
 - ゲスト：後藤 健夫 氏、経済産業省 浅野 大介氏
- ・ ミネルバ大学について（ミネルバ大学広報担当者より）
- ・ 自身のプロジェクトアイデアを固め、実行していくためのワークショップ
- ・ ピッチの仕方についてのセッション（体系的手法と実例）



10月13日（土）15:00-18:00

場所：学研ビル

・ゲスト講演

- ・ AJ Perez 氏（New Valence Robotics Founder）※英語での講演
- ・ 自身のアイデアをピッチし、Perez氏からフィードバックをもらう



10月21日（日）9:00-13:00

場所：学研ビル

- ・ チームごとにピッチ（プロジェクトの進捗発表）
- ・ ※ブートキャンプ（10月の3連休）時の宿題
- ・ ペルソナについて



10月28日（日）9:00-13:00

場所：学研ビル

・ゲスト講演

- ・ 工藤 勇一 氏（千代田区立麹町中学校 校長）
- ・ Christopher Altman 氏（元NASA訓練生）※英語での講演
- ・ ほか、個別での相談（メンタリング）実施。



11月11日（日）13:00-18:00

場所：学研ビル

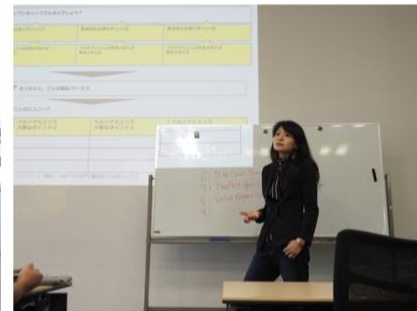
- ・プロジェクトを進めるために必要な仮説とその検証について
- ・プロジェクトごとの発表
- ・ほか、個別での相談（メンタリング）実施



11月18日（日）13:00-18:00

場所：プラウドシティ大田六郷

- ・英語で思いを話すために必要なことについて（セッション）
- ・My TEDトークをつくるワークショップ
- ・ほか、個別での相談（メンタリング）実施。



11月25日（日）9:00-18:00

場所：学研ビル

- ・ゲスト講演 / Andy Gaines 氏 (Pocket Gems)
「ゲームの作り方、人をハマらせるデザイン」 ※英語にて講演
- ・ゲスト講演 / 渡辺 由美子 氏 (NPO法人キッズドア 理事長)
「子どもの貧困と教育について」
- ・中間発表

それぞれの活動について数分のCMを作成し発表。解決したい教育の問題と、プロジェクトの今後の課題などについての質疑応答など。



12月2日（日）13:00-18:00

場所：プラウドシティ大田六郷

- ・プロジェクトを進めるための「大目的」
- ・プロジェクトの拡大（スケール）の考え方について
- ・ほか、個別での相談（メンタリング）実施

12月9日（日）9:00-13:00

場所：学研ビル

- ・プロジェクトの拡大（スケール）の考え方について
※12/2と同様の内容
- ・プロトタイプ作成について
- ・ほか、個別での相談（メンタリング）実施

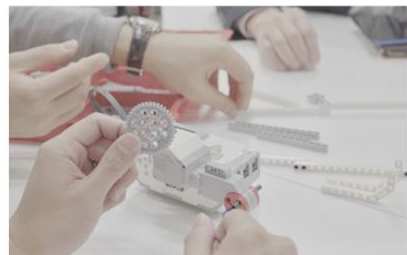
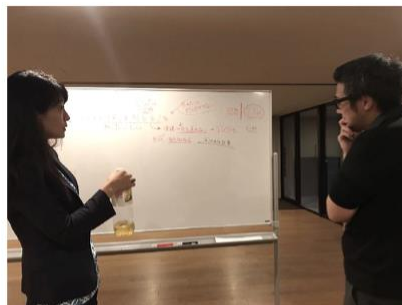
※12月8日13:00-18:00で補講実施

12月16日（日）13:00-18:00

場所：学研ビル

- ・LEGOワークショップ（STEM教育体験）
- ・今までの振り返りと最終発表について
- ・参加者によるプロジェクト進捗の発表
- ・ほか、個別での相談（メンタリング）実施

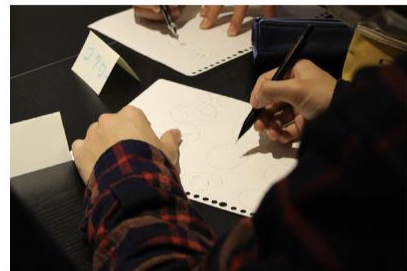
※12月15日（土）13:00-18:00で補講実施



1月14日（月）10:00-18:00

場所：学研ビル、TIME SPACE五反田

- ・デモデイに向けて（レクチャー）
- ・Chalk Jackプロジェクトチームによるヒアリング
学生、教員が「学校・授業のあり方」について意見交換を行った
- ・海外大学進学についてのセミナー（アメリカ、イギリス、オーストラリア）
- ・PBLの実施
PBLの実施を取り入れようとするプロジェクトのプロトタイプとして実際に学生向けにPBLを行った



1月20日（日）13:00-18:00

場所：学研ビル

- ・実例から学ぶピッチのポイント（セッション）
- ・デモデイに向けてピッチへのフィードバック
- ・ゲスト講演 / 藤井 友樹氏（Plug and Play Japan）
「中国のEdTech市場について」



1月27日（日）13:00-18:00

場所：学研ビル

- ・各チームのピッチ練習とフィードバック
- ・ほか、個別での相談（メンタリング）実施



2月9日（土）13:00-18:00

場所：TIME SPACE五反田

- ・デモデイリハーサル
- ・ほか、個別での相談（メンタリング）実施

2月10日（日）10:00-18:00

場所：TIME SPACE五反田

- ・デモデイ

【タイムスケジュール】

10:15 開場

10:30 オープニングセッション

11:00 発表

12:00-13:00 休憩

13:00 発表

14:00 経済産業省 浅野氏と教員のディスカッション

14:30 発表

17:30 クロージングセッション

18:00 閉会



ターゲット

現状の教育や学校改革に熱意のある
教員、教育関係者

告知方法

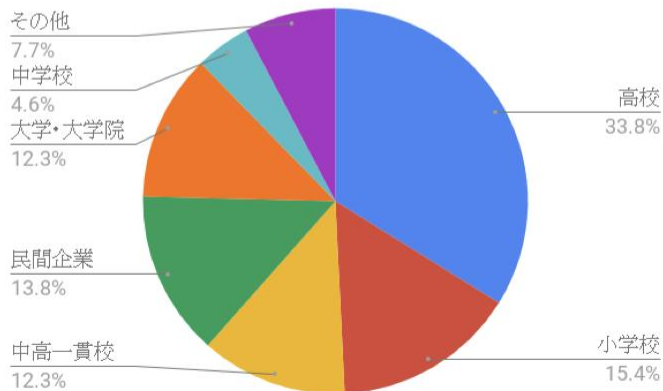
つながりのある学校や教員への声掛け
関係者のFacebookページ

概要

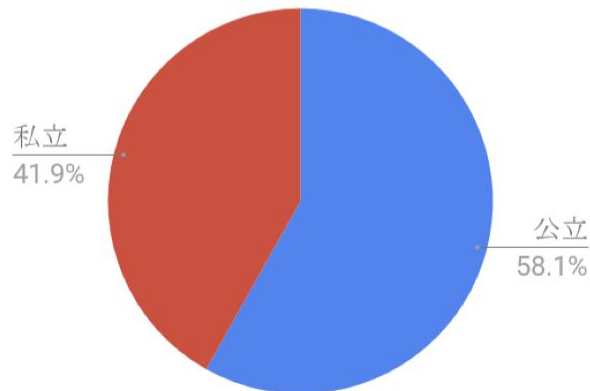
申込み人数：65名
卒業人数（最終発表チーム）：31名

参加者デモグラフィック

所属



小中高校教諭の所属学校区分



プロジェクト概要

卒業チーム：16チーム

プロジェクトカテゴリ

- ・授業の改革、刷新 … 4件
- ・学校（経営）の改革 … 3件
- ・チェンジメーカー育成 … 2件
- ・教育や学校のオープン化 … 3件
- ・教員へのサポート … 1件
- ・いじめ問題 … 1件
- ・その他 … 2件

※包括的に改革を進めるプロジェクトが多かったため
カテゴリ分けはあくまでも目安

チーム構成

- ・教員だけのチーム … 8件
- ・生徒とのチーム … 2件
- ・民間企業、NPO法人などとのチーム … 3件
- ・その他 … 3件

プロジェクト事例

チーム名：Hero Drive

「教師がすべきでない仕事」をテーマにアンケートを実施、結果をSNSにてシェアした。
アンケートは200件以上シェアされ、結果をまとめた投稿には30件以上のコメントがついた。

■教師がすべきでない仕事123

ご協力いただいたみなさま、ありがとうございます。第1弾として、約半数、また一部の校種しか処理できていませんが、結果を公開したいと思います。

本調査は、今後の教育をよりよくするために活用する予定です。生データですので、取り扱いにはお気をつけください。よろしくお願いたします。

余裕のある方は、引き続きアンケートのご協力をよろしくお願いいたします↓
<https://docs.google.com/.../1FAIpQLSezCgyka-d3IPwU.../viewform...>

教師がすべきでない仕事123 第1弾 (中・高版)

第1弾 (中・高版) 2018.12.11

がすべきでない仕事123 第1弾 (中・高版)

チーム名：Genius Finder



中学生の才能の発見・伸長を支援するため、地域に根ざした放課後の学習の場の提供と学校・民間企業・NPOが協働で開発した授業実践を行うプロジェクト。

プロジェクトの中心メンバーである墨田区の公立中学校の教員が「第6回 墨田区 地域クラウド交流会」内のピッチコンテストに起業家として出場。見事、コンテストで賞を獲得。

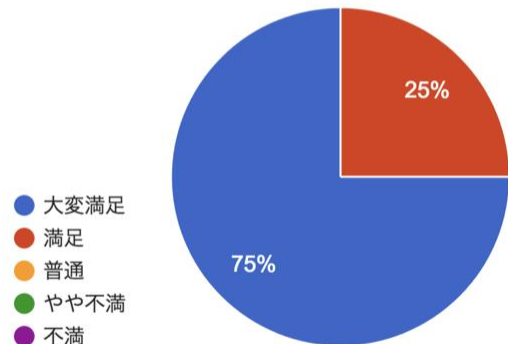
その後、墨田区と実際の共創の話を進めている。

チーム名	プロジェクト概要
Chalk-Jack(Proposal Project)	授業や学校の運営を教員から、生徒の主体へとシフトしていく。「自分の身の回りの環境」を自ら作ろうと主体的な行動ができる人材育成。
Genius Finder	才能を伸ばす放課後プロジェクト 中学生の才能の発見・伸長を支援するため、地域に根ざした放課後の学習の場の提供と学校・民間企業・NPOが協働で開発した授業実践を行う。 全ての子どもを天才に！
Hero Drive	100年以上スタイルを変えない教育をアップデートせよ！価値創造力と課題解決力で思考停止社会の脱却を試みる。その方法は、「先生をヒーローにする」こと。 ①探求PBL作成プラットフォーム、②教員養成システム、③多忙解消コンサルティング
KAETSU PARENTS PROJECT	子どもの教育に親が効果的に関わることは、他のいかなる教育改革よりも確実に変化をもたらす可能性を持っている。子どもにとって最初の先生である親が「新しい学び」という言葉の前に置き去りにされないよう、共に学び合う場を創りたい。家庭、教室、地域を繋ぎ、子どもたちの生き生きとした学びの空間を創るプロジェクト！
Learnig-bombs	総合学習の担当者と地域のキーマンとのネットワークと、両者の協働によるPBL型総合学習の創出
new-school	生徒募集に厳しい地方の私立が明確なビジョンのもとに学校の取り組みを整理して進学実績を出し、21世紀型の学校への変貌を遂げる。
passion finder	埼玉県の高校生に英語とアントレプレナーシップを身につかせ、21世紀を引っ張る新しいリーダーを育成する。
personalized-english	「学習における最大の敵は『めんどくさい』である」という仮説のもと、どのように英語学習を個別対応させることができるかについて考える。
PJ_Ransel (Find!)	2019年に入ってから、様々な形で報道が続く「いじめ問題」。日本でも取り組みが進められていますが、今もなお重篤ないじめ事案は発生しています。この背景にある構造的課題への問いかけと、テクノロジーによるアプローチの提案をしたいと思います。
real-PBL	学ぶ意義を感じるために実体験を積むPBL
showa girl power	受験者数増加のため、教員の負担を増やさず、今あるものを生かし、目標を絞った改革を行う。学校のアイデンティティを生かしAO特化型のブランド校化を目指す。

チーム名	プロジェクト概要
Limitless	非認知能力が低い、相対的貧困層にいる、自己効力・自己肯定感が弱い、従来の“学力”が低い。そんな生徒が集まるSGHでもSSHでもない、公立高校において、企画広報部の授業担当者として、生徒のグローバルキャリアを育成するモデルを企画、実行、発信する。
What do you work for?	今後無くなる職業や今はない職業に就くことになる高校1年生に対して、どんなことができるだろうか。従来から行われていたキャリア学習に代わるものを提案していきたい。
皆んなグローバル	都立高校でのグローバルな事業展開とその成果。誰でも何処でもできる企画への提案と、それらの企画を授業へも応用できる教育的な成果の共有。
大人の友達（おしゃべりのすすめ）	学生と大人をつなげることで新しい可能性広げるプロジェクトです
未来無双	<ul style="list-style-type: none"> ①なぜ今日ここにいるのか ②今まで自分が受けてきた教育の変遷と思うところ ③大学で何を学んだか ④どのようにしてキャリアを築こうとしているのか ⑤実際に職を手にするまでどのようなプロセスだったのか ⑥今後に向けて

授業や学校、社会を変えることへの意欲に変化はありましたか？

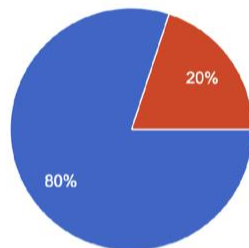
全体を通しての満足度を教えてください



- 大変満足
- 満足
- 普通
- やや不満
- 不満

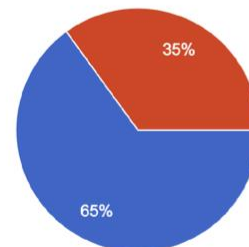
(N=20)

- もともと意欲はあったし、さらに高まった
- もともとは意欲がなかったが、意欲が湧いてきた
- もともと意欲がなかったし、意欲は湧かなかった



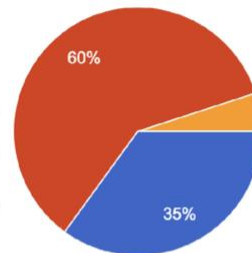
「グローバル」への考え方に変化はありましたか？

- もともと重要だと思っていたし、さらに高まった
- もともとは重要だと思っていなかったが、意欲が湧いてきた
- もともと重要だと思っていなかったし、意欲は湧かなかった



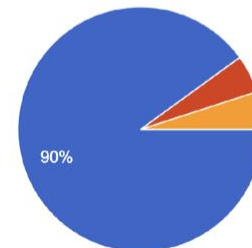
授業や学校、社会を変えることのできる生徒を育成することへの自信に変化はありましたか？

- もともと自信はあったし、さらに自信がついた
- もともと自信はなかったが、自信がついた
- もともと自信はないし、自信はつかなかった
- そう思わない



今回のプロジェクトを継続して続けて行く予定ですか？

- はい
- いいえ
- 状況が動いているので、常に状況に応じてプランを立てていきます。だから単純に継続というものはないです (いつもそうですが)



自分がHeroMakersに参加して影響されたこと、参加してからの変化などを自由にお書きください。

もともと教育界の新しい動きに敏感なほうでしたが、**グローバルな視点で物事を見る視点**がついたような気がしています。

学校の当たり前を疑う、当たり前を変えていい、仲間を巻き込む、そんなことができるようになった。

このプログラムには校長命令で参加したので、**正直最初は嫌々**で周りも意識の高い人たちばかりで私なんて場違いだと思っていました。

でも何回も参加するうちに自分の中にも**熱い思いがあるのに気づき**、それを考え、行動していく過程がすごく楽しく感じました。

自分たちがやっていることをいつも応援しながらアドバイスして下さったねねさん、後藤さん、大島さんには本当に感謝してます。

学校で自分たちのプロジェクトを管理職に話して何度も心を殺されましたが、ここにくると『次！別のアプローチでやってやる！』と気持ちがあがります。

また、皆さんのアイデアや考え方を聞いたことも今までない経験で視野が広がりました。**他の学校さらには企業の方の仲間**ができたことは自分の強みです。

早いスピードで企画を実現する手法を学んだ。**アントレは現勤務校の生徒と相性**がいい。学校、教育の見方が変わった。

日頃から不満に思っていたことを、言語化することができたこと。そして、他校の先生方も同じ様なことを思っていることを知り、**気持ちが楽になった**こと。自分の学校の運営や在り方について考える機会を持ったこと。視野が広がった。そして、**新しく学校の課題に気付かせてもらえた**。普通に生活していたら関わるのでできなかった方々とお話しして刺激を受けたり、ご飯できたりしてお知り合いになれたこと。そして、一緒に参加した先生とは元々ご飯に行ったりはしていたけど、更に距離が縮まったこと。

1 **そもそもを問い直す**ことになった。そもそもを問い直し始めると、自分の子ども達へ対してもそもそもを問いかけたり、そもそもを考える授業になったりしてきた。

2 今までそこまで理解できていなかった高校現場のリアルな声を聴き続けることで、小学生の子たちが進み道の現状が理解できた。

3 **教員独特の認識の“枠組み”がはっきりと見えた**。見えたから、変えることができる。

4 経産省の動きから社会の動きを現実感を持って、理解することができた。

民間企業・NPOだけでなく、行政とコラボレーションできることに(ほぼ)なったのは、タイミングが良かったこともありますが、こうしてHeroMakersで動いて来なければ仲間もできなかったし、事業化することも困難だったと思います。

教員という立場でも社会にインパクトを出す活動ができたことを嬉しく思います。まだまだ実施前ですが、実現して、継続させていきたいと思います。

参加頻度は比較的多かった方だと思いますが、**参加するたびに勇気付けられました**。毎週ないし隔週でエンジンをかけることができたと感じています。

またHeroMakersだけでなく未来の教室事業やその他の地域行政の取り組みが噛み合っって良い流れに乗ることができたと思います。

この半年間ワクワクでした！

教員として生きるのがさらに楽しくなりました！

ありがとうございました！

ここがどういうところか、を自分なりに理解するまでが長くて、そこが一番ストレスフルでした。それを最初に告知できたら、もっと多くのいい仲間が集まったのかなと感じます。

自分の意見ですが、アントレのレクチャーなどよりは**スピーカーが普段知りえない方ばかりで**、そこに面白みを感じていました。参加している皆さんの意見や実体験なども興味深かった。

チョークジャックじゃないけど、我々が後は勝手にやればいいのかないかなと思いました。

悩んだのは「**本当に自分がやりたいことってなんだろう**」かなと思います。

自分がHeroMakersに参加して影響されたこと、参加してからの変化などを自由にお書きください。

自分が当たり前に毎日当たり前のようにこなしてきたこと、探求し獲得した知識や経験のクラウドが、誰かのリソースに既になっているということの発見。同様に必ず自分のぶち当たっている課題のリソースもどこかにあるということ。皆、学校も企業も個々に解決しようとしているが、近道は外に出て共創する仲間(そのカギ持っているよ)を探してみる。この狭い日本の更に狭い社会の更に狭い自分のゾーンの中でみんな悩んでんだなあ・・・

環境が違えど同じような悩みを抱えている方がいらっしやること、それに向けて様々なアプローチをしていることを知れたことが一番の収穫でした。

自分以外のプロジェクトにも、携わりたいプロジェクトは多数ありましたので、何か協力できることがあれば。

1. 自分が変わることを経験できたこと

マインドセットが変わりました。どんなスキルがあっても、どんなに語学力があっても、教師の思いや実際の行動がそこになれば、教育はできません。教師がどういう人間として生徒の前に立つのかが、極めて重要になってきます。実際に、自分で行動をし、教育を変えていけると本当に信じているからこそ、生徒に熱が伝わっていきます。自己肯定感の高い教師にしか、自己肯定感の高い生徒は育てられません。HeroMakersは、教師としての自己肯定感を高めてくれる場所でした。

2. どうやって学校を変えればよいか方法が分かったこと

アントレプレナーシップを学ぶことで、いかに問題を見つけ、深掘りし、チームを作り、広げていくか、そのための方法を知ることができました。

3. 努力し続けるための仲間がいたこと

一緒に努力している方々がいたり、フィードバックをしてくれる方々がいたりしたからこそ、動き続けることができました。

will carry on this movement

問題解決について新しい観点を教わりました。

自分の信念に依存しない力を獲得した。多様な背景をもつ他者の思考に触れ、自分も含めた全てへの受容と猜疑心から思考をつくることができた。

もともと火種を持っていたので、自分が影響されることはありませんでした。が、生徒や他校の教員・生徒へと火をつけるシェアできる時間と場所となったことは大変有難かったです。自分の交流範囲ではつながれない方(特に他校生徒)にアクセスができたから。

影響されたことは、不可能はないと実感したことです。浮かんでくるアイデアや描いた世界観が現実とは程遠く不可能に思えることだったとしても、それを発展させてくれるようなアイデアをくれたり、絶対に「無理だよ」とか、「現実を見た方がいいよ」とかそういったで否定せずに背中を押してくれる環境はあるということが支えになりました。参加した後、将来に対する不安や、悶々としたものがなくなり、思ったら行動という精神が身に付きました。

英語が大事であることを痛いほど感じる事ができ、これからの生き方を変えようとは思えたこと。

アントレの視点

先生の課題意識を強烈に実感できました。ここに参加されている現場の先生の実行力に脱帽です。みなさまの取り組みが日本中に広がるよう、サポートさせていただきたいです。

教員の方の直面する悩みにまず生きた形で触れることができたこと。そもそも教育を考え直す(前提を疑いなおす)ことをできるようになったこと

益々学校改革の必要性を実感しました。

取り組まれているプロジェクトでの「失敗」があれば教えてください。

- ・私たちの考えを上が真面目にとりあってくれない。『それはそれ』『分かるよーいいねー私たちも一緒』で適当にあしらわれた！
- ・プロジェクトをやっていると周りの教員の目が冷たい。頑張っちゃってるやつと思われる
- ・私たちの仲間だとバレたくない

寧々さん達から頂いたアドバイスを元に考えた自分達としては良いと思う学校改革プロジェクトが、実際に取り入れられなかったことが障壁でした。でも、**理事長や校長達も色々と困っている**ことを知れました。

プロジェクトの失敗と言うよりは、**構造の壁を実感**しました。参加された先生方が頑張っても、**経営層や管理職が変わらなければ**教育自体大きく変わらない。大学合格実績の出し方や学校そのものの特色を明確化して生徒を集める。そもそも生徒が集まっていないのに助成金が出て、内部留保が何十億とあって、理事会は本気でチャレンジしなくて済む要素が沢山残っています。経営層管理職が本気で学校経営に取り組む仕組みが必要と感ずます。

話込みが足りなかった為、資料の作成や課題への取り組みを行う中で認識の違いが出てきたりしたことがありました。すぐにその修正もできないので、モチベーションの維持に苦勞する時もありました。

他者への理解共有

元々は他の人のプロジェクトに入って関わっていく予定だったが、初動に失敗して個人でのプロジェクトの方がメインになってしまった。立場上、自身の役割と貢献できることをもっと提供したかった。

アイデアが思い浮かばなかった。

そもそも企画のアイデアがイマイチだったこと

計画ほど学年のPBLが進んでいないということ。

他校生徒とのディスカッションで、学校に特に不満の無い生徒が集まっていたので、彼らの需要とプロジェクトの供給が噛み合っていなかったこと。そのまま別の方向に議論が進み、発散した先が教育基本法と学習指導要領ですべて解決できる話で終わったこと。一緒にプロジェクトを進めていた仲間に教育のそもそも論があると思い込んでいたことがわかった。

当初教育に関するプロジェクトを作らなければと焦ってしまいました。（ですが、自分が変わる場だと考えると上手くいったので、行き詰った時の息抜きタイムのようHeroMakers以外のワークデイみたいなものもあったら面白いと思います。

まずは中教審が「評定」を廃止しなかったこと（ま、その意図と次への戦略は考えられるので、それはそれで良いのですが）。あと、HeroMakersへ提示したものは別の、すでに進行していたProjectが頓挫した関係で、さまざまなことが一時的にだけ停止してしまったこと。

取り組まれているプロジェクトでの「成功」があれば教えてください。

学校のアピールポイントをまとめられたこと。同僚で仲間を作れたこと。

- 1 様々なプロジェクトが、自分のプロジェクトという軸で統合されていったこと。
- 2 外部との協働による総合学習が、**他校にも展開し始めていること**

教員間のコミュニケーションが増え、自分が関わる学内のプロジェクトで**アイデアがバンバン出てくる**ようになってきた。

上記のような中でも、積極的に周囲へ発信をしてくれるメンバーに恵まれ、自分だけでは行けなかったコミュニティを作れて、**継続して運営ができる環境を構築**することができるようになりました。

- ・裏では共感してくれる教員もいた
- ・生徒は興味をもって来た？

プログラム自走のための**資金調達法**
企業を入れることへのバリアフリー化

保護者を巻き込んだイベントができそう

民間企業・NPOだけでなく行政を巻き込むことができた。(できる予定)

関係する学校が少しずつ変わり出してきた事。

区の取り組みと共創する可能性が高まっている。

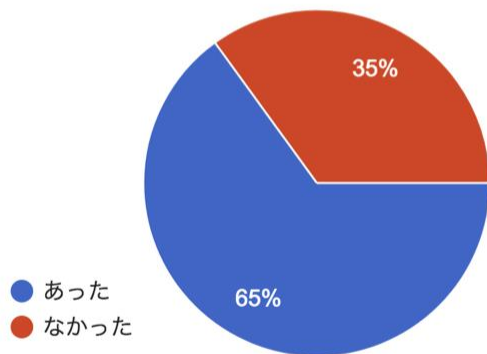
小中学校で教育プログラムにのっかってこれなかった（正確には、教員の都合で外されてしまった）生徒さんたちを、高校の教育プログラムの中で**意欲の再始動**ができるようになったこと。

課題を考え抜く力を頂いたこと

大学生という自分の立ち位置がわからず、「どうしようかな」と思っていました。以前の昔だったら、悩んでしまうところを自分で課題設定をし、自分の立ち位置を定めて**コミュニティにポジティブな影響**をもたらすことができたと思います。

最終日に発表できたこと

今回のプログラムを通じて、他校の教員や生徒、民間企業など外部の人との共創やコラボレーションの機会がありましたか？



(N=20)

具体的にどういったコラボレーションがありましたか？

①民間企業から学校への授業・人材提供

②民間企業とNPO法人の協働事業

③民間企業・NPO・教員・行政でミーティングの機会を持てたこと。

姫路で、様々なステークホルダーの方と越境しながら話し合ったり、活動したりするようになった。ハードルが一気に下がった！

活動基盤の団体へプレゼンを行ったことで、自分のプロジェクトと行政が考える事業との共生ができることがわかり、事業予算を獲得できそうになってきました。

我々のプロジェクトであるChalk-Jackを知ったことによって、他校の先生が「生徒」に相談して、プロジェクトを作っていたこと。視点の変換が与える影響が、様々な教員の無意識の中に入り込んでいた。別の高校の生徒がワークショップに来てくれるようになった。埼玉県、都内の高校にて、教員から今回の我々のプロジェクトが生徒へ伝えられ、授業内で試みがあったようです。勉強会では、50人近くの人が集まるようになった。段々生物室に入らない人数になってきたので、他校の学校で開催したい。

その人たちとまずは繋がることのできたこと。そして、それぞれに可能な範囲での対話の機会と時間を得たこと。

生徒さんの参加、インタビュー

チョークジャックの視点・発想などが自然と日常の生徒との関わりの中で出てきました。

プロジェクトを進めるための案などを相談し合えた。

学校の課題を民間企業との連携で課題解決できる。

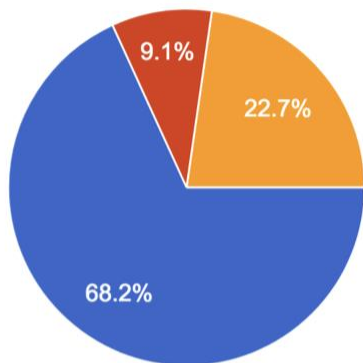
さまざまな活躍を見たり聞いたりすることで、見識が広がったと思います。

他校生徒の交流

ベネッセやリクルートとの協働や頻繁な意見交換

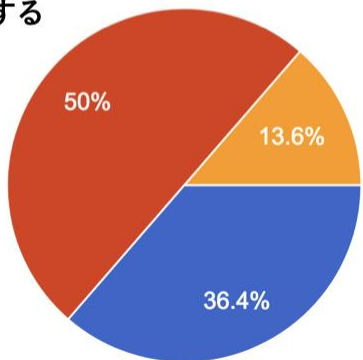
どのような経緯で参加しましたか？

- 通っている学校の先生に誘われたから
- 友達に誘われたから
- タクトピアの他のプログラムに参加していた繋がりから (FutureHackなど)



自身のクリエイティビティに対する評価に変化はありましたか？

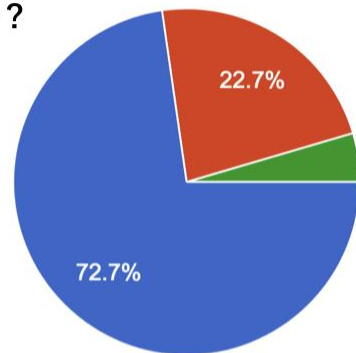
- もともと自信はあったし、さらに自信がついた
- もともと自信はなかったが、自信がついた
- もともと自信はないし、自信はつかなかった



(N=22)

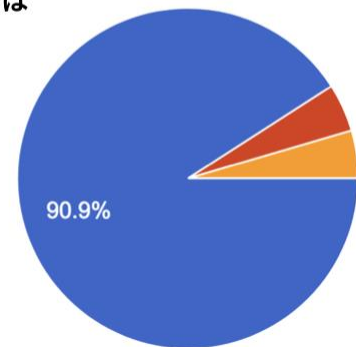
今回関わった先生が教える教科に対する意欲に変化はありましたか？

- もともと意欲はあったし、さらに高まった
- もともとは意欲がなかったが、意欲が湧いてきた
- もともと意欲がなかったし、意欲は湧かなかった
- 関わった先生がどの教科の先生なのかわからない



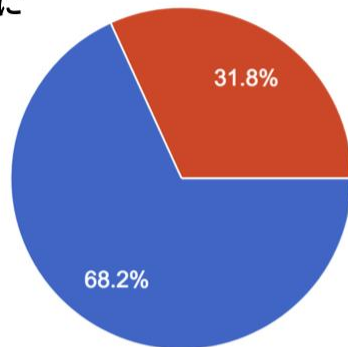
「グローバル」への考え方に変化はありましたか？

- もともと重要だと思っていたし、さらに高まった
- もともとは重要だと思っていなかったが、意欲が湧いてきた
- もともと重要だと思っていなかったし、意欲は湧かなかった



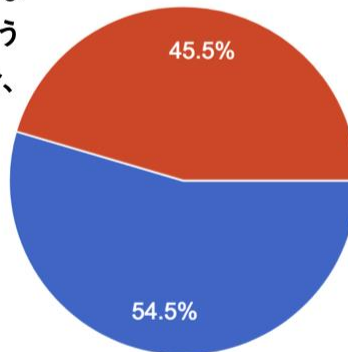
授業や学校、社会を変えることへの意欲に変化はありましたか？

- もともと意欲はあったし、さらに高まった
- もともとは意欲がなかったが、意欲が湧いてきた
- もともと意欲がなかったし、意欲は湧かなかった



今後、自分でプロジェクトを進めるような授業や、正解が最初からはわからないようなことに取り組むような授業があった場合、主体的に取り組みたいです thinks か？

- もともと主体的だし、さらにその意欲が高まった
- もともとは主体的ではなかったが、意欲が湧いてきた
- もともと主体的ではなかったし、意欲は湧かなかった



(N=22)

印象に残ったことがあればお教えてください。

身近なところで教育の変革がおこなわれていること

今まで先生は学校の上の立場の人の言うことをただ聞いているだけの人だと思込んでいたのですが、そうではなくて先生も自分のやりたいことや教えたいこと、変えたいことと向き合っていて葛藤しながら日々働いているのだなということを知りました。

そのため、今まで存在ごと嫌悪の対象であったような人がある意味で今の私たちと「近い」存在であるのだと意識がぐっと変わりました。

ですが、本気で教育を変えようとしている方は少数だと思います。だからこそ、これからのプログラムで多くの先生を巻き込んで今の日本の教育を「本気で」一緒に変えていきたいです。変えましょう。

そのためなら何でもするつもりなので是非これからも声をかけてください。参加します。

わたしの学校にはいなくても、全国には素敵な先生方が大勢いると知ることができて、少しホッとした。

他の学校の先生、生徒と出会えたのは素晴らしい。

もう少し、(この企画の意図をしっかりと把握してないので論点がずれているかもしれませんが)交流できたら尚嬉しいと感じました。

自分たちの手で一つのものを作り上げていくという過程が面白かった。

今まで「英語でディスカッション」と聞くと、ハードルの高いものだ勝手に思い込んでいました。しかし、タクトビアの公演やプログラムに参加してみて、英語は自分自身のアイデアや意見をより多くの人に伝える1つの方法にすぎないのだということに気づきました。グローバルという言葉を多く耳にするようになった今だからこそ、英語を使うこと怖がらず、自分の意見を伝え、相手の意見を取り入れようとするマインドセットを行うことが大切だと思いました。

タクトビアの皆さんが、話し始めてすぐに皆を惹き付けていたところが印象的でした。

みんなプランがあって聞いていて楽しかった

発表を聞いたとき、自分では思いつかなかった発想や意見があっておもしろかったです。

Hero Makersは教師の自己肯定感が高まる場所

一 参加のきっかけ

一番最初の3日間のブートキャンプで、1分間ピッチをするというのがありました。自分の教育への想いを英語で発信しようというものです。その時に私は「自己肯定感の高い教師にしか、自己肯定感の高い生徒は育てられない」という内容の発表をしました。これが私がHero Makersに参加した理由です。

教師であれば、自分の生徒たちに対して「自分は、このビジョンに向けて頑張っていて、すごく楽しい。だから、あなたも頑張れ！」と、胸を張って伝えたい。しかし、自分に誇れるものがあるのか。この乱世の時代に、生徒たちに胸を張って誇れるものがあるのか。その時の私にはありませんでした。

今まで何もしてなかった訳ではなくて、セミナーに出てみたり、本を読んだり、外部の人に合ったり、教員サークルで模擬授業のブラッシュアップをし合ったり。もちろん自身の英語を磨き続ける努力も継続してやり続けていました。そして授業はそれなりにうまくいっている。しかし、何か違和感がありました。

そんな時、今回のHero Makersの主催者であった白川寧々さんからFacebookで案内を受けました

「教員こそが、日本を牽引するグローバルリーダーに」

この言葉に強烈に惹かれました。白川さんにメッセージを送ると、会ったことのない私に対して長文で、丁寧に対応をしてくださいました。

そして、『公教育の役割は、全員に、元々の意識がない子に対しては特に、「英語はこんなに使える」「英語はこんなに役立つ」というマインドを植え付け、機会の不平等を是正することだと思っています。』という白川さんの言葉に、「これが自分のやりたいことだ！」とさらに納得しました。すぐに、参加することを決めました。

一 実際に参加してみても

実際に参加しての感想は、大大大大満足...！です。週末にHero Makersのセッションに参加し、成果物やプロトタイプをつくり、学校で実践する。そしてその結果をHero Makersに持ち帰り、ヒントやフィードバックをもらう。このサイクルを繰り返し、「学校は変えられる」と何度も思いました。そして、実際に変わりました。

例えば生徒。週2時間か3時間の授業での関わりしかない、担任でもない、それでも自分の想いと構想を伝え、協力してくれるよう声をかけたら17人も生徒が集まりました。うち12人が、理想の授業の実現に向けて、プロジェクトチームとして継続的に活動に参加してくれています。

なぜか。それは、私自身が「学校は変わる」と本気で思い、変えるために全力で動き、そしてそれを楽しいと感じているからに他ならないのではないかと思います。「最初からそうだったのではないか」と思われるかもしれませんが、この変化には自分がいちばん驚いています。以前の私が必死に声をかけても、ついてくる生徒などいませんでした。

私の自己肯定感が高まった分、生徒の自己肯定感を高めることができる。教師が「できる」と信じていければいほど、生徒も自分自身を信じるようになる。それを経験できて、本当に良かったです。まだまだ道半ばではありますが、自分自身も、周りも、本当にいろいろなことが変わりました。

一 常に新しい学びをめざして、挑戦を

Hero Makersのような研修はこれからの教育において、非常に重要で必要なものだと思います。教師の役割が変化してきているからです。

これまでの学校での問題は、学級崩壊でした。研修で求められてきたのは、教師の授業力の向上や生徒指導のノウハウです。授業が上手で、子

どもへの対応が上手ければ、学級は荒れない。教師の授業技量自体はこれからも変わらず必要だと思います。40人の一斉授業ができない教師がアクティブラーニングなんてできません。活動あって、学びなしです。

しかし、授業のノウハウがかなり蓄積されつつあるのも事実です。体系化されたそれらの知識を学んでいけば、わかりやすい授業を誰でもできるようになってきています。

では、これからの教師の役割は何か。PBLにおけるファシリテーターか、それはまだよくわからないというのが正直なところですが、確実なのは、わかりやすい授業をするだけではだめだということです。

教師こそが、常に新しい学びをめざして、挑戦を続けていかなければいけないのだと思います。この先、何が起こるかわからない。どんな教育が必要かわからない。とするならば、必要なのは、どんな授業スキルを持っているか、ではありません。

必要なのは、教師が常に新しいゴールに向かって走り、キラキラしている、その「姿勢」そのものではないでしょうか。そうすれば、子どもは勝手に学んでいく。これが「未来の教室」そして「未来の先生」なのではないかという答えに至りました。

そしてそんな中でHero Makersは、教師自身に火をつけ、自信を持たせる場所でした。教師が変わって、そして子どもが変わる。

これからも学び続け、挑戦を続けていきます。

Hero Makersは教師の自己肯定感が高まる場所

埼玉県立不動岡高校 田原佑介

Web版 → <https://note.mu/miraied/n/n63f3075fb629>

/// 経産省「未来の教室」実証事業「HeroMakers」///

10月をはじめ後藤さんのタイムラインにある投稿が流れてきて、そこにはこう書かれていました。

「世界を見渡しても、『先生』に投資しない教育改革に未来はないことを受け止め、噛み締め、ここに至る。」

<https://goo.gl/gi2hQT>
<https://goo.gl/SGVfkm>

直感で「行きたい!」と思いましたが、案内直後の3連休3日間の開催@東京。しかも半年にわたり通い続ける必要もありました。妻にも見せると、なんと奇跡のGOサイン! (妻の判断は神がっかっている!) 最初の「第1回共創ブートキャンププログラム」はオールイングリッシュで内容ほとんど理解できないとか、FutureHACKというスーパー高校生軍団との共演とか、もうそれはそれは破茶滅茶で、頭は混乱・錯乱状態になりながらも、心は喜んでいました! そんなスタートでした。

学校教員をしているので、ありがたいことに日々学校教育全般に対する様々なご意見をいただけます。

ときに、怒りや不安や諦めの思いも。そして、その全てが、多かれ少なかれ教員である自分に刺さります。自分の被教育体験とも重ね合わせながら本当に「そうですよね!」と共感することも多いのですが、教員となった今、共感も理解も全部ぜんぶブーメランのように教員である自分に返ってきます。「刺さること」はやはり苦しいです。でもHeroMakersを通して少しずつ「これはもしかして役得ではないか」と考えるようにしました。その声に対して、「自分は何ができるのか?」と問う機会にもなるからです。

HeroMakersでは、「三浦さん、何したいの?」幾度となくNingNing 'Neinei Shirakawa'さんから問われました。

でも、思いかえしてみても、実際にセリフとしてはそう何度も問われていないのかもしれない。途中からは自分が自分に問っていたのかもしれない。よく境がわかりませんw

とにかくその言葉がなぜ胸に刻まれているかということ、HeroMakersというプログラムが参加者一人ひとりの「will」(意志)に基づいて、進んでいったからだと思います。

麹町中工藤校長をはじめとするスペシャルなゲストスピーカーや「24 STEPs」など、創り出すための情報と武器は丁寧に提供してもらいました。でも「will」は最後の最後まで自身に問い続ける必要がありました。

自分のプロジェクトを形作っていくとき、pitchをするとき・・・自分のwillから生み出したプロジェクトであるからこそ、絶えず現状を踏まえ「自分は何をしたいのだ?」と自分に問いかけざるを得ませんでした。

教員としてよく受けている研修は、教師として「どうあるべき」「どうすべき」という“べき論”モードなものが多いように思うのです。べき論はもちろん大切ですが、そればかりを大量に浴びているとwillがじわじわと侵食されていたのではないかと今となって思い返しています。

教師のwillはまだまだ“未開拓の荒野”であり、“未だ眠る鉱脈”です。

"entrepreneurship"ってごく限られた一部の人のためのものだと思っていました。それを、教師教育のコンセプトとして導入しようとした白川寧々さんの“思考の飛躍”には、プロジェクトを終えた後であっても、未だ驚きを隠せない。

HeroMakersが掘り当てた「willの鉱脈」は間違いなく広大。これからも多くの仲間と「willの鉱脈」を掘りながら自らのプロジェクトを進めていきます。

P.S.

2番目に心に残っているのは、「pitchしたい人?」です。ちょっとでもチャンスがあるとすぐにpitしようとしたり、求められたりするの文化として面白いなど。修了した今、それが聞けないのは少し寂しい。でも、きっとHeroMakersのみんなは勝手に自分から意志を伝え、何らかの形で実現していくはず。もちろんぼくもそうする。

#HeroMakersとは

◆誰が為にカネは鳴る

昨年10月から経済産業省とTaktopiaの「未来の教室」実証事業に関わらせていただき、3連休の昨日日曜日に東京で、様々な人の前で発表の場をいただきました。

今の自分の状況だからこそ、自らの意思で参加。そしたら、本気で後押しして下さる方々と出逢えた。

今の日本の学校教育ではアントレプレナーシップはひとつの武器になる。

プロジェクト名・スライドは発表前日に決まり、発表を見返すと悔しい思いもありますが、課題が山積みの中現勤務校を舞台に、関西の公立高校の可能性の模索を、官民の垣根をとっばらって共創する勇気を得た。

『現行の子どもに関わる評価、まだまだや。』

7年前の帰国から公立高校で3校勤務の中で、ふつふつと煮えたくっていた社会や当事者の“評価”をひっくりかえす運動をこれからも現場から実証します。

もっと子どもの可能性を引き伸ばしたくないか?

潜在的な、“どうせ”、“思い込み”。

もう要らない。

【Hero Makersの事務本1.7月14日 未来の教育のはか!】

H31.02.10. Sun.

<https://note.mu/okosi>

経産省 未来の教室 HeroMakers

#HeroMakersとは何?

#iimitless

10月初旬～2月中旬までに教員が企画したプロジェクトの実践報告をデモすることになり、発表してきました。

私は生徒の主体性による授業は社会を動かすという

・生徒が提案する授業:

・“Chalk-Jack”@学校

・会社やコミュニティで提案する市民が作り出す社会:

・“Propose Project”@あらゆる組織

NingNing 'Neinei Shirakawa'さん、大島 恵子 (Keiko Oshima)さん大変お世話になりました。有難うございました!

後藤 健夫 (Goto Takeo)さんご紹介と見守りを有難うございました。何よりもこのプログラムに参加された皆様!そして生徒方に感謝です。

『これから』です。

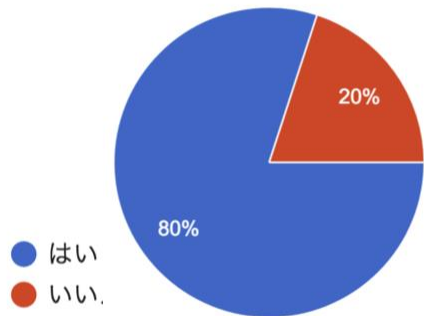
他校の生徒への提案や、他校教員が集まっている中でのご紹介、Chalk-Jackの質の補償を保つライセンスシステムなどなど。具体的に突破口を見つけていきたいなあ。

#HeroMakers #ChalkJack #社会課題解決

課題	主な要因	改善案
<p>離脱者</p> <p>本プログラムは当初60名以上の参加申し込みがあったものの、最終的には離脱者の多さが目立った。最終発表までたどり着く事自体が実質的に選考になっていたという面もあるため、一概に課題とは言えないが、本項目では離脱要因について考察と改善案の提示を行う。</p> <p>※次回以降の選考課程や方法などは検討すべき点である。</p>	<p>英語</p> <p>当初は英語のセッションも交えてプログラムを実施していたが、内容の理解が難しい参加者も多かった。このハードルにより離脱した人も居たと考えられる。</p> <p>基礎知識</p> <p>英語と同様、アントレプレナーに必要な基礎知識や最新情報に関する感度の低さなどからセッション内容について行けない人が居たと考えられる。</p> <p>横の繋がり</p> <p>当初から参加者の横のつながりができていれば上記事項のキャッチアップが難しい場合でも助け合いながら参加できたと考えられる。また、プロジェクトごとのコラボレーションもさらに活性化したと考えられる。</p> <p>多忙さ</p> <p>教員の多忙により、セッションスケジュール調整が難しかったのはもちろん、プロジェクトが思うように進められない、基礎的知識が不足している自覚があっても日常的にそれらの情報やスキルを手に入れる余裕がないということがわかった。</p>	<p>英語のオプションコース化</p> <p>英語学習への意欲がある人も多く、オプションコース化することでそれぞれに最適な形でグローバルリーダーとしての英語力を伸ばすサポートを行う。</p> <p>コミュニティ化</p> <p>今回の卒業生も巻き込んだ形でのHero Makersコミュニティを形成。情報交換やプロジェクト実行に関して協力しあえるように。</p> <p>オンラインコンテンツ</p> <p>オンラインコンテンツを充実させ、一部セッションに関してはどこでもいつでも受講可能に。</p> <p>合宿の実施</p> <p>プログラム冒頭に合宿を行う。これにより参加者のコミュニティ化促進とマインドセット変容のためのインプットを短時間で可能に。</p> <p>地方での開催</p> <p>今回は関西地方からの参加者も多く、セッションへの実際の参加が難しかった。同時多発的に地方での開催も行う。</p>

－ 地方開催 －

今後Hero Makersの地方版の開催を、自身の活動している自治体で後押ししていきたいですか？



(N=20)

関西（姫路）

Hero Makers 1期生を幹事とし、関西でのHero Makersの同時開催が実現可能。

四国（土佐町）

土佐町とのコラボレーションにより、四国全土を対象としたHero Makersの開催が実現可能。



Hero Makersコミュニティの全国展開と各地でのノウハウやリソースの共有などプラットフォーム化

Hero Makersたちによる教育改革が
全国で同時多発的に起こる状態へ

必要なのは架空の『先生』像のアップデート

ー Hero Makersほど周囲に反対された企画はなかったかもしれない

私は基本、新しい企画を立ち上げるときのベースは、実践的な妄想から始める。

MITで浴びるように受けてきたコンストラクシヨニズムの概念で速成した英語独学方法の"ネイティブ脳"も、効くかどうかは妄想だった。

2014年当時の新潟国際情報高校や真面高校のような「海外に行くのが当たり前ではない」高校生相手に、実際のMBAに近いアントレ教育をベースにしたプログラムを創ったのも、ついてきてくれるかどうかは妄想だった。

「未来の教室には、未来の先生が必要だ。日本からグローバルリーダーを生み出したいなら、まず先生がみんなのロールモデルとしてグローバルリーダーになるのは必須だろう。

どんなすごいテクノロジーを開発しても、思いを理解しない人間にかかれば、教室の隅でホコリをかぶるだけだけど、自分で思いを持って未来を創る気概を持つ人間にかかれば、国単位の教育問題も余裕で解決できる」

と、ひらめいたのは、私にしてみれば「いつもの妄想」の一つだった。例のごとくアイデアが浮かんだときのクセで、色んな所で言いふらしていたら、本当に色んな人に、

「そんなの無理だ、やめておけ」と言われた。

「今までのプログラムで出会ったような先生は一部の上澄みで、実際の先生のマジョリティがあんな感じだと思ったら痛い目にあうぞ」と、何人もの教育関係リーダーに忠告された。

ー Hero Makersとはなんなのか？

前述のような反対を受けるそもその要因は、先生ひとりひとりではなく、人々が学校制度を経験する中で体験した理不尽を押し付けて錬成された『平均するとネガティブな先生像』にある。

そんな状況においてHero Makersは、顔が見えない『集合体としての先生』というリミットを外し、未来を創る意志と責任のある個人として誇りを持った上で、「あなたが、なりたい先生」になろうよ、という誘いみたいなものであった。

『これからの時代は自分の運命を配られたカード以上に切り拓く人間（＝ヒーロー）を育てないといけないから、ヒーローを育てる未来の先生たちはHero Makers』という側面も、もちろんある。

その上でHeroとは、突き詰めれば、意志を持つ強い個人だ。諦めたり、「仕方なかった」と言わない人たちだ。そして、先生が務まる人って、そもそも全員「強い」のだから、もっと誇りを持って好きにやろう。**ネガティブな『集合体としての先生像』から脱却して、個人に還ろう。**

被害者になるのではなく、実は結構な力を持つプレイヤーとして自分の価値観と誇りと責任を反映して「生身の個人」として全てのステークホルダーに関わり、一緒に見たい世界を創っていこう。孤立するといけないから、仲間を集めることや、学校外とつながることや、Hero Makersそのものがサポートシステムとして広がっていくこと自体も、プログラムの一部だ。

逆説的な話だけれども、「自分は『先生像』の色眼鏡では測られない、意志を持った先生だ」という気概を持った、越境的な先生たち（と教育改革者たち）の集団こそが、世にはびこる『集合体としての先生像』及びそれに伴う思い込みや諦めを打破する力があると思っている。

ー Hero Makersになるハードルは高くない

よく誤解されるが、Hero MakersはSuper Teachersではない。スーパーティーチャーは各学校に1人2人いる孤立した授業が上手い、みんなに嫉妬される変わり者のことだ。一人のスーパーティーチャーは偶然の上澄みだが、沢山のHero Makersは、例えばそういうスーパーティーチャーの恩恵をどうしたらうちのクラスにも届けられるだろうね？と**仕組みから作り直すことを考えるアントレプレナー集団**だと考えればわかりやすいかも知れない。

誰もがSuper Teacherになれるわけじゃないが、Hero Makersになるハードルは高くない。だからこそ、思い込みの壁から脱却し、次の時代の当たり前をみんなで作れる可能性がある。

提案時に私が妄想で思い描いていた「3年後、5年後にはこんな事業になってます」像を提出したのだが、3年目5年目に実現する予定だったゴールのいくつか、早くも2年目となる2019年度には実現する予定すら立ってしまうほど、Hero Makersの先生たちは強く、素晴らしく、行動的なアントレプレナーだった。

「これは難しすぎるかな？」と躊躇したプログラム内容、終わってみたら「甘く見てごめん」だった。それだけ、私の中のパラダイムシフトものすごい半年となった。

自分の力にさえ気づいてしまえば、「先生」ってのは、世の中で最もアントレプレナーに向いている人たちかも知れない。

未来の『先生像』をアップデートしていくのは、生身のHero Makersだ。

教育の無血革命を、ここから始めていこう。



Hero Makers
for future teacher

Hero Makers

～「未来の先生」へ至るEMBA型共創プログラム～
by タクトピア株式会社

